平成２９年度
全国学力・学習状況調査
結果報告書

－ 指導の改善策 －
国語編

旭川市教育委員会

国語編

課題の改善策

２～１３ページ

○今年度の国語Ｂの「正答率」「誤答例」「無解答率」などの詳細な分析から，課題の見られた設問を小・中学校でそれぞれ３問ずつ取り上げ，当該の単元における指導の参考になるよう，具体的な授業プランを作成しました。

「知識及び技能」の指導のポイント

１４～１７ページ

○今年度も含め過去に出題された国語Ａの設問の詳細な分析から，児童生徒に十分身に付いていない内容を整理しました。
○小・中学校９年間の系統性・連続性を踏まえ，指導に適した題材と指導の際のポイントについて示しています。

国語科の授業づくりの視点

１８～１９ページ

○国語科の授業づくりや授業改善の際，大切にしたい視点を７点挙げています。
○課題を改善する授業づくりの参考になるよう，「７つの視点」を具体化しながら，単元の構想，本時の学習指導案について例を示しています。
○「７つの視点」は，Ｐ２～１３の「課題の改善策」の本時案にも示しています。

国語科の授業づくりのステップ（単元・本時）

２０～２１ページ

○国語科の授業づくりを進める手順やその際に大切にしたいポイントについて，「単元編」「本時編」として整理しました。
○Ｐ２～１３の「課題の改善策」においても，このステップで授業づくりを行いました。

国語科等における教師の言語技術

２２ページ

○国語科をはじめとしてどの教科等においても求められる「児童生徒の思考を深める発問・指示」について，具体例とともに整理しました。

【旭川市版】漢字学習プリント

２３ページ

○漢字の「読み」「書き」における，今年度も含め過去に出題された設問の詳細な分析から，苦手としていることが明らかとなった「同じ音で意味が異なる漢字」の学習プリントや，学習する学年ごとに整理した「読み」「書き」それぞれの学習プリントを合わせて３０枚作成しました。必要なプリントをダウンロードして御活用ください。

小学校・中学校学習指導要領　国語 目標及び指導事項一覧表

２４～２７ページ

○国語科の授業づくりにおいては，指導事項に基づいた「身に付けさせたい力」を明確にし，９年間の系統性を踏まえて当該学年に適した目標を設定することが大切であることから，指導事項の系統性を分かりやすく一覧として示した本資料を作成しました。

課題の改善策１

小学校国語Ｂ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要
小Ｂ１三　目的や意図に応じて，話の構成や内容を工夫し，場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す。
「折り紙のみりょくについて，【スピーチメモ】と【グループの話し合いの様子】からそれぞれ取り上げる」「スピーチにふさわしい言葉づかい」等の条件に合わせて，友達の助言を受け，石田さんが一番伝えたいことが伝わるように，スピーチの内容を見直す。

学習指導要領における領域・内容
〔第５学年及び第６学年〕Ａイ
〔第５学年及び第６学年〕Ｂウ

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！
①【スピーチメモ】と【グループの話合いの様子】のそれぞれから，助言を取り上げていない。
＜不足している力＞ ・自分が伝えたいことを伝える際，事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する。（小５，６Ａイ）

＜授業プラン＞　第５学年「すいせんします」教科書Ｐ１９０

単元を通して身に付けさせたい力

○目的や条件を明確にして，推薦したい理由が伝わるように話の構成を工夫しながら，場に応じた適切な言葉遣いで話す力（話すこと・聞くこと　イ）

単元を通して行う言語活動：理由を明確にして推薦したり、それを聞いたりする。

	＜主な学習活動＞	〔指導上の留意点〕
第一次（1時）	①推薦とはどのようなことかを理解し，「単元を通した言語活動」と学習の流れを知り，単元の見通しをもつ。	■教師のモデルを基にして，推薦とはどのようなことかを実感させ，「事物や人物を実際に選んでもらえる」ためにはどうしたらよいか目的意識をもたせた課題設定をする。
第二次（4時）	②「お楽しみ会のゲーム」について，目的や条件を考え，推薦するゲームを決める。 ※設定する題材は学級の実態を考慮して決定する。	■推薦する目的と条件を考え，推薦する事物や人物を考えさせる。 ※学級や児童の実態に合わせ，教師主導で設定してもよい。 ※事物例：行事や発表の内容，休み時間の全員遊び ※人物例：発表や挨拶をする代表者，児童会役員
	③推薦するゲームについて，特徴や優れているところをカードにまとめ，スピーチメモマップを作成する。	■推薦したい理由をカードに網羅的に書かせ，内容を吟味させる。 ※児童の実態に合わせ，座標軸を活用したスピーチメモマップを作成し，視覚的に理解させる。 ※マップ例：縦軸…容易性／横軸…説得力
	④カードやスピーチメモマップを基にして，内容や構成を考え，スピーチ原稿を書く。	■カードやスピーチメモマップから内容を取り上げ，スピーチ原稿を作成させる。 ※文章量は 500～600 字程度，発表時間は２分間程度などと条件を設定するとよい。
	⑤スピーチを互いに聞き合い，助言を基にスピーチ原稿を加筆修正する。	■ペアやグループなどの少人数で交流し，お互いのスピーチ内容について，助言をさせる。 ※「聞き手を意識したスピーチ」という相手意識をもたせ，声量や速さ，姿勢や表情，間の開け方や強弱を考えさせる。
第三次（1時）	⑥友達同士で推薦を聞き，交流しながら，聞き手を納得させるスピーチについて考える。	■グループや全体などの多い人数で交流し，単元全体の振り返りを行う。 ■本単元で学んだ，伝えたいことを分かりやすく伝えるためには構成を工夫する必要があることを，今後の学習活動・日常生活に生かしていこうとする心情・態度を育てる。

本時の目標	推薦したい理由が伝わるように，交流での助言を基にスピーチ原稿を修正することができる。（5/6 時間目）【話すこと・聞くこと　イ】明確化 正対

学　習　活　動	指導上の留意点・評価◇
○前時の学習を振り返る。 ・前時に作成したスピーチ原稿を確認する。 ○聞き手が納得する推薦にするためには，推薦したい理由が伝わるように構成を工夫する必要があることをつかむ。 明確化 主体的	・声量や速さ，姿勢や表情，間の開け方や声の強弱などの話し方についても意識させる。
課題　推薦したい理由が伝わるように，友達の助言を基にスピーチ原稿を直そう。 言語活動の設定 正対	
○交流の手順や留意点を確認する。 ・一人ずつスピーチをして，推薦したい理由が伝わるための助言をする。 ・話し方についてよいところを指摘する。 ○交流する。（グループ） 【交流の様子の一部】 Ａさん　Ｂさんの推薦スピーチで，さらに工夫したらいいところはないかな。 Ｃさん　推薦する目的ははっきりしていて，条件も合っていたね。 Ｄさん　だけど，推薦したい理由をもっとたくさん伝えるといいんじゃないかな。 Ｃさん　例えば，自分の体験を取り入れてみたらどうだろう。 Ｂさん　うん，スピーチに取り入れられそうな体験を考えてみるね。 Ａさん　調べて分かったことや優れている点も多く取り入れてみたらどうかな。 Ｄさん　声の強弱や速さはちょうどよくて，聞きやすかったよね。　（交流は続く） ○交流を通して気付いたことを確認する。（全体） ○スピーチ原稿を加筆修正する。 ○学習を振り返る。 ・板書を生かし，推薦したい理由が伝わるスピーチを確認する。	「推薦したい理由が伝わるように」という目的意識を明確にし，本時の学習内容について見通しをもたせ，学習する意欲を高めましょう。 ◇Ａ：推薦したい理由が伝わるように，交流での助言を基に構成の工夫に着目してスピーチ原稿を修正している。 Ｂ：推薦したい理由が伝わるように，交流での助言を基にスピーチ原稿を修正している。 正対 ※Ｃへの手立て：交流で助言されたことを想起させ，修正する箇所を焦点化して修正させる。 **Point** 交流の様子を教師が的確に押さえ，その都度評価をするなどして，指導と評価の一体化を図りましょう。
振り返り 汎用性 主体的 正対 振り返り ○推薦したい理由が伝わるように構成を工夫すると，聞き手が納得するスピーチにすることができたので，今後も様々な場面で活用したい。	
○次時の見通しをもつ。 単元 主体的 ・加筆修正した原稿を基に，スピーチの交流をする。	子ども一人一人が自分の身に付けた能力を自覚できるように発表や記述をするなどして言語化させたり，子ども自身が生活場面で活用をすることをイメージできるような振り返りを設定したりしましょう。

目指す単元のゴール（児童の「単元の振り返り」例）

○推薦をする際には，聞き手が納得するように，意見とその理由を明確にする，自分の体験や調べた事実などの具体的な理由を入れるなど，スピーチの構成を工夫し，説得力をもたせることが大切だと分かった。
○聞き手が納得するスピーチをするために気を付けることが，たくさんあることが分かった。今後の学習や生活場面で推薦をする際に生かしていきたい。
○今後もスピーチなどをする際には，場に応じた適切な言葉遣いで話していきたい。

課題の改善策２

小学校国語Ｂ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要
小Ｂ２三　目的や意図に応じ，必要な内容を整理して書く。
「水やりに協力してくれる人をぼ集します」の［イ］に入る内容を，中学生からの【アドバイス】を基に書く。

学習指導要領における領域・内容
〔第５学年及び第６学年〕Ｂウ

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！
①　水やりが大変な理由について，【アドバイス】の中から適切に内容を取り上げていない。 ②　【緑のカーテン作りへの協力のお願い】にふさわしい表現で書けていない。
＜不足している力＞ ・事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。（小５，６Ｂウ）

＜授業プラン＞　第５学年「次への一歩―活動報告書」教科書Ｐ８８

単元を通して身に付けさせたい力

〇文章全体の構成の効果を考え，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，表現の効果などについて工夫して書くことができる力（書くこと　ウ）

単元を通して行う言語活動：委員会での活動をふり返って活動報告を書く。

	＜主な学習活動＞	〔指導上の留意点〕
第一次（3時間）	①活動報告書を書く目的を考え，学習課題を設定する。	■活動報告書の意義を理解させる。 ■これまでに書いてきた様式との違いを考えさせる。
	②報告書にまとめたい活動を決めて，学習計画を立て，見通しをもつ。	■報告書に書くために必要な学習活動と結び付いた学習計画を立てるようにする。
	③活動報告書の構成や内容について話し合う。	■小見出しや文末表現に注目させ，報告書の書き方を確かめさせる。
第二次（5時間）	④報告に必要なことを考えながら，書くための材料を集め，整理する。	■活動記録等を基に，報告に必要な材料を集めさせる。
	⑤効果的に書くための表現の工夫を見付け，小見出しの付け方など，報告書の書き方を考える。	■小見出しの付け方，説明の書き方，事実と考えの書き方を確かめるようにする。
	⑥報告書の構成メモを作る。	■自分たちが書く報告書に合う内容を考え，構成メモを作らせる。
	⑦⑧メモを基に，報告書の下書きを書く。	■小見出しの付け方，説明の書き方，事実と考えの書き方などに注意して報告書を書かせる。
第三次（2時間）	⑨活動報告書を読み返し，推敲して清書する。	■推敲の観点にしたがって読み合うことで，よりよい報告書になるようにさせる。 ■内容や書き方についての感想や意見を，付箋紙などに書かせる。 ■他教科や総合的な学習の時間，生活に生かす意識をもたせる。
	⑩活動報告書を互いに読み合い，感想や意見などを交流する。単元の学習をまとめ，学習したことを他教科等に生かす見通しをもつ。	

本時の目標	文章全体の構成の効果を考えて書いたり，事実と感想・意見を区別して書いたりすることができる。（７・８/１０時間目）【書くこと　ウ】明確化 正対

学　習　活　動	指導上の留意点・評価◇
○学習計画を見て，本時の学習を確認する。 単元 ○本時の学習課題を確認する。明確化 主体的	
課題　構成メモをもとに，活動報告書の下書きを書こう。 言語活動の設定 正対	
○教科書の例で見付けた小見出しの付け方，説明の書き方，事実と考えの書き方を振り返り，書くときに気を付けることを交流する。 【交流の様子の一部】 ・活動内容は，時間の順に書くと分かりやすいね。 ・活動内容の後には，反省や今後の活動について書いた方が次に生かせるね。 ・箇条書きをするところは，文ではなく大切な言葉だけにするといいね。 ・事実は「一をした。」「一があった。」，考えは「一と思う。」「一たい。」など書き方を区別した方がいいね。 ・みんなは，この委員会のことをよく知らないだろうから，委員会の説明は詳しく書こう。 ・活動計画のところは，箇条書きでいいね。	児童が書き方について見通しがもてるように，教科書の例を振り返ったり，モデルを示したりしましょう。 ◇A：内容や見出しの付け方を工夫して，読み手を意識して下書きを書いている。 B：文章全体の構成の効果を考えて書いたり，事実と感想・意見を区別して書いたりしている。 正対 ※C への手立て：教科書の例を参考にさせたり，教師と対話しながら委員会の活動を振り返らせたりする。
○構成メモを基に，下書きを書く。 ○下書きを交流する。 【交流の様子の一部】 ・活動内容の反省と今後の活動は合っているかな。 ・活動内容は事実の書き方になっているね。今後の活動は自分たちの考えだから，文末が変わってくるね。 ・委員会によって書く内容や書き方が変わってくるね。	Point 委員会の活動内容によって，必要なことが違ってくることを実感させましょう。
○学習を振り返る。 **振り返り** 汎用性 主体的 正対 振り返り ○構成メモを基に，目的に応じて構成や書き方に気を付けて書くと，分かりやすい報告書を書くことができた。	目的に応じて書く内容や書き方が変わることは，今後の学習でも生かされることを実感させましょう。
○次時の学習の見通しをもつ。 単元 主体的 ・下書きを読み返して，活動報告書を仕上げる。	

目指す単元のゴール（児童の「単元の振り返り」例）

○今回勉強したことは，総合的な学習の時間に学習のまとめを書く時にも生かせそうだ。
○読む人のことを考えて，活動報告に書く内容を考えないといけないことが分かった。それぞれの委員会で書く必要があることが違うことが分かった。
○見出しの付け方や意味について勉強できてよかった。見出しがあると何が書いてあるかすぐに分かる。

課題の改善策３

小学校国語Ｂ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要
小Ｂ３三　物語を読み，具体的な叙述を基に理由を明確にして，自分の考えをまとめる。
松ぞうじいさんやとび吉がきつねであると考えたわけについて，具体的な叙述を基にどのように解釈したのかを書く。

学習指導要領における領域・内容
〔第５学年及び第６学年〕Ｃエ
〔第５学年及び第６学年〕Ｂウ

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！

①【話し合いの様子の一部】で示されている叙述以外を【物語の一部】から取り上げているものの，取り上げた言葉や文を基に，どうして松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えるのかが書けていない。

＜不足している力＞

- 物語を読む際に，場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読む力。（小３，４Ｃウ）
- 物語を読む際に，登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめる力。（小５，６Ｃエ）

＜授業プラン＞

第４学年「初雪のふる日」教科書下Ｐ１０４

単元を通して身に付けさせたい力

○ 場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の気持ちの変化や情景を想像して読む力（読むこと　ウ）

単元を通して行う言語活動

読んで感じたことが伝わるように、音読する。

	＜主な学習活動＞	〔指導上の留意点〕
第一次（1時間）	①「初雪のふる日」の範読を聞き，読後感をもつ。 単元を通して行う言語活動を知り，単元の見通しをもつ。	■読後感の違いはどこから来るのかに興味をもたせる。 ■自分なりの感動や感想をもった場面を，どのように音読すると思いが伝わるか考え，音読の工夫について考えることを知る。
第二次（4時間）	②作品の設定や構造を読む。 ③こわいことが起こりそうな予感が読者に生まれたわけを考える。 ④こわさや不安などの読後感が読者に生まれたわけを考える。 ⑤あたたかさや安心感などの読後感が読者に生まれたわけを考える。	■作品内に登場する人物，場所，時などについて読み取る。 ■中心人物が現実→非現実→現実を行き来するファンタジー作品であることを理解させる。非現実への入り口と現実への出口を考えさせる。 ■以下の「わけ」について考えさせ，根拠となる叙述を複数特定させる。 ③白うさぎたちにさらわれそうになる「恐怖」や「不安」な非現実の世界に，中心人物が自然と入りこんでいく「わけ」 ④「恐怖」や「不安」な読後感を読者が感じた「わけ」 ⑤「ほっとした温かさ」「安心感」などの読後感を読者が感じた「わけ」 ■読後感の根拠となる叙述の読み方を工夫して音読させる。
第三次（2時間）	⑥⑦音読の工夫を考えるとともに，音読を発表する場をもち，読んで感じたことが伝わるように，音読する。	■自分なりの感動や感想をもった場面を決定する。そして，その感動や感想をもたらした叙述を特定し，どのような音読の工夫をすると，思いが伝わるかを考えさせる。 ※「聞き手を意識する」という視点をもたせ，声の強弱や読む速さ，声の調子，間の取り方などについて改めて考えさせる。

本時の目標	音読に生かすために，あたたかさや安心感などの読後感が読者に生まれたわけを考えることができる。（5/7時間）【読むこと　ウ】明確化 正対

学　習　活　動	指導上の留意点・評価◇
○前時の学習を振り返る。 ○本時の学習課題を確認する。明確化 主体的 →「ほっとした」「助かってよかった」などの読後感が生まれたわけを考え，音読に生かしたい。言語活動の設定	読後感の理由となる言葉や文を見付ける活動が，複数の場面の叙述を見付けることであると意識させましょう。
課題　音読に生かすために，あたたかさや安心感などの読後感が読者に生まれたわけを考えよう。正対	
○関係する場面から根拠となる叙述を複数見付け，その理由を考える。（個人） ○グループで交流し，自分の考えを明確にする。（グループ）	Point 「自分の考えをより確かなものにしたい」，「ほかのわけも知りたい」など，交流の目的を明らかにします。
【交流の様子の一部】 Aさん　あたたかさや安心感が生まれたわけを見付けた人はいるかな。 Bさん　（根拠を示しながら）私は「よもぎの葉を，そっと胸に当ててみました。」のところから，誰かのやさしさを感じたと思ったんだけど。 Cさん　やさしさだったら，ぼくは「声をそろえて，がんばれがんばれ」のところもそうだと思ったよ。誰かにやさしく励まされているような感じがするけど。 Aさん　やさしさ以外の書き方に気付いた人はいるかな。 Dさん　「あたたかい春の日をいっぱいに浴びて」からは，春の日差しがぽかぽか当たる，春のあたたかい感じがしないかな。 Bさん　確かにそうね。だったら「花のにおいをかいだような気がしました。」からも，春のあたたかい感じを受けるわ。 Cさん　他にも「女の子の体は，だんだん温かくなり，ほほは，ほんのりばら色になりました。」からは，これまでにない温かさを感じるね。～（交流は続く）～	根拠となる叙述を示しながら感想を述べる説明をさせ，交流を活性化させましょう。 ◇A：読後感の根拠となる複数の場面の叙述を関係付けて読んでいる。 B：読後感の根拠となる複数の場面の叙述を見付けて読んでいる。正対 ※Cへの手立て：小グループで交流されたわけから２つ選択させ，これまでの学習と関連付けながら，どのように感じたかを想像させる。
○気付いたことや感じたことを全体で交流する。（全体） ○根拠となる叙述を大切にしながら，音読に生かす。 ・聞き手に「安心感」が伝わるように，「がんばれがんばれ」は，かみしめるように読ませる。 ○前時の学習と比較して，本時の学習を振り返る。 ・前時の学びとの共通点や相違点を考える。	学習して分かったことや次に生かしたいことなど，振り返りの視点を明確にします。
振り返り　汎用性 主体的 正対 振り返り ○様子（あたたかさ）を表す言葉，気候や季節を表す言葉，人物の姿や感情を表す言葉などを使って，あたたかさや安心感を生み出していたことが分かった。	
○次時の見通しをもつ。単元 主体的	

目指す単元のゴール（児童の「単元の振り返り」例）

○「こわさ」や「不安」，「あたたかさ」や「安心感」などの読後感が生まれたわけは，複数の場面の言葉や文章が関係付けられていることが分かった。
○根拠となる言葉や文章を大切にしながら音読すると，自分が感じた感動が友達にも伝わってうれしかった。これからも，根拠を明らかにして，自分の思いや考えをまとめていきたい。

課題の改善策４

中学校国語Ｂ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要
中Ｂ１三　比喩を用いた表現に着目し，感じたことや考えたことを書く。
【本の紹介カード】にある比喩表現が含まれる一文を書き抜く。また，その比喩が何を表現しているかを明確にし，自身の感想を交えて書く。

学習指導要領における領域・内容
〔第１学年〕　Ｂウ
〔第１学年〕　Ｂエ

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！
①比喩表現に関する理解が不十分だった。 ②「書き抜き」「比喩が何を表現しているか」「感想」という複数の条件が理解できなかった。
＜不足している力＞ ・書き手が用いた比喩が何を表現しているかを的確に捉える力（中１Ｂエ） ・根拠を明確にして，自分の考えや思いを書く力（中１Ｂウ）

＜授業プラン＞　第１学年「鑑賞文を書く」教科書Ｐ１８０

単元を通して身に付けさせたい力

○ 表現の工夫に着目し，文章における表現の効果を捉える力（書くこと　エ）

単元を通して行う言語活動：比喩表現を意識して、鑑賞文を書く。

	＜主な学習活動＞	〔指導上の留意点〕
第一次（1時間）	①例文を比較して，比喻表現について理解するとともに単元の見通しをもつ。	■比喻表現が使われている例と使われていない例，比喻表現が誤って使われている例を提示し，比喻表現がもたらす効果を確認する。
第二次（3時間）	②観点ごとに鑑賞する対象の魅力を整理して，鑑賞文を書く。	■前時の例を参考にして，鑑賞する対象の魅力が伝わるように，比喻表現を用いた鑑賞文を書かせる。
	③既習教材の比喻表現を確認し，鑑賞文の比喻表現の一部を取り上げて例示した表現に近付けるように修正する。	■「星の花が降るころに」を用いて，例示した比喻と鑑賞文で使った比喻を比べることにより，想像力をかきたてる比喻表現について学ぶ。
	④自分が書いた鑑賞文の中から表現を工夫した部分を書き出す。他者と鑑賞文を読み合い，表現の工夫について交流した後で，鑑賞文を修正する。	■前時で行った交流を受けて，鑑賞文の表現をよりよいものに修正させる。 ■工夫した表現が鑑賞する対象について何のどのような様子が伝わるか，伝わりづらい場合はどのような表現にするとよいかを交流の中で明らかにさせる。
第三次（1時間）	⑤修正した部分について交流し，完成した鑑賞文を読み合い，感想を書く。	■どの表現を，どのような意図でどのように修正したかを説明させる。

本時の目標	例示した文における比喩表現の性質を理解し，それを参考に表現を工夫して書くことができる。（3/5時間目）【書くこと　エ】 明確化 正対

学　習　活　動	指導上の留意点・評価◇
○前時までの学習を振り返る。 単元 ○本時の学習課題を確認する。 明確化 主体的	単元を通じて，比喻表現を意識させることで，学習内容を焦点化させるとともに，本時が単元の学習と直結していることを理解させましょう。
課題　既習の教材文を参考にして，表現を修正しよう。 言語活動の設定 正対	
○比喩表現とはどのようなものかを再確認する。 ○既習教材の比喩表現を確認する。（全体） 主体的 →「星の花が降るころに」の表現を使い，比喩表現が意味することを確認する。 ※例示する文 「溶け出していた魂がもう一度引っ込み，やっと顔の輪郭が戻ってきたような気がした。」→例が「わたあめのような雲」のように，あるものを別のもので例えるタイプの比喩ではないことを確認する。 ○鑑賞文の表現の一部を取り上げて例示した表現に近付けるように修正する。（グループ） →話合いを行い，自分の思いを的確に表現にするためにどのような表現に変えるべきかを話し合う。 「こういう表現にしたら，意味を想像できる比喩表現になりそうじゃない？」 ○修正前後の表現を交流する。（全体）	比喩は直喩・隠喩の２つに分類できるという知識だけでなく，効果的な比喩が読み手の想像力をかき立てる効果があることを確認させましょう。 **Point** 交流の場面では，同じ対象を見ても，複数の表現が考えられることを理解させましょう。 ◇A：例示した比喩表現から表現の工夫について理解し，表現を修正している。 B：表現の工夫について意識しながら，表現を修正している。 正対 ※Cへの手立て：グループ交流により，複数の改善案を提示させ，そのうちから選択させることで，よりよい表現に修正させる。
振り返り 汎用性 主体的 正対 振り返り ○同じ内容でも数多くの表現があるが，表現を工夫することで読み手をひきつけ，文章に深みや広がり，味わいをもたせることができる。 ○次時の見通しをもつ。 単元 主体的 ・鑑賞文を読み返したり，他者と鑑賞文を読み合ったりしながら，鑑賞文を修正する。	表現を工夫することは鑑賞文だけでなく，文章を書く活動全般において生かされる汎用的な力であることを自覚させましょう。

目指す単元のゴール（生徒の「単元の振り返り」例）

○比喩表現を「～～のようだ」「～～みたい」という形だけ理解するのではなく，複数の表現を比較し，それを参考に実際に比喩表現を使ってみると，比喩表現が何を意味しているのかをよく考えながら文章を書いたり，文章を読んだりすることができるようになった。

○学習した比喩表現は，鑑賞文だけでなく，他の国語科の学習，行事作文など日常生活の中の書く活動にも生かせそうだ。

課題の改善策５

中学校国語Ｂ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要
中Ｂ２三　相手の反応を踏まえながら，事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話す内容を考えて書く。
「【本の一部】を参考にして【意見２】にあるどのようにひざを動かすのか，なぜひざを動かすとよいのかという理由が分かるように書く」，「玉を受け止めるときは，に続けて書く」等の複数の条件に合わせて，スピーチの一部分を聞き手に分かりやすく直して書く。

学習指導要領における領域・内容
〔第１学年〕Ａイ 〔第２学年〕Ｂウ

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！
①【意見２】にある改善の２つの視点の片方にしか触れていない。 ②【意見２】にある改善の２つの視点を資料から捉えられていない。 ③ 理由を明確にせずに，羅列して書いている。
＜不足している力＞ ・相手の反応を踏まえながら，事実や事柄が効果的に伝わるように話す。（中１Ａイ） ・目的に応じて資料や本から必要な情報を読み取る。（中１Ｃカ） ・目的に応じて，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書く。（中２Ｂウ）

＜授業プラン＞ 第１学年「スピーチをする」教科書Ｐ５６

単元を通して身に付けさせたい力

○全体と部分，事実と意見との関係に注意して話を構成し，相手の反応を踏まえながら話す力（話すこと・聞くこと　イ）

単元を通して行う言語活動：自分のことを知ってもらうために，スピーチをする。

	＜主な学習活動＞	〔指導上の留意点〕
第一次（1時間）	①いくつかのキーワードをもとに自分の好きな物をあげて，クラスの友人に紹介したい話題を決める。紹介する話題について，簡単な内容をメモする。	■学級で，新たに出会った仲間に，自分のことを知ってもらうために，「自分の好きなもの」を紹介することを確認することで，相手意識，目的意識などをもたせる。 ■「好きなもの」を考えるためのキーワードを提示したり，思いをかける欄を設けたりするなどワークシートを工夫する。
第二次（3時間）	②１分程度のスピーチの構成を考え，班の中で助言し合いながら，スピーチの構成・内容を修正する。	■スピーチ原稿を基に交流する。交流の際には，分かりづらかった点などをメモする交流シートを用意する。 ■交流シートの複数の条件を基にスピーチの内容を改善する。
	③④伝えるための技能を確認し，班で数回練習した後，スピーチの会を開く。スピーチの後，他の班から良かった点，もう少し詳しく聞きたかった点を出してもらう時間を設ける。	■聞く視点が書かれた評価用紙に，分かりやすかった点や疑問点，詳しく聞きたかった点などをメモできるような欄を準備する。 ■スピーチ発表後に評価用紙を基にスピーチの内容について各班で交流する場面と，各班の代表者が発表者にアドバイスを伝える場面を設定する。
第三次（1時間）	⑤スピーチの会で出された意見を基に，自分のスピーチを振り返る。	■「第１次の改善が仲間に伝わっていたか」「更なる工夫点はどこか」などを確認するチェックシートを用いて，自分のスピーチを振り返り，自己評価を行う。

本時の目標	自分が選んだ「好きなもの」を相手に効果的に伝えるためにスピーチ原稿を構成することができる。（2/5時間目）【話すこと　イ】明確化 正対

学　習　活　動	指導上の留意点・評価◇
○スピーチのイメージをもつ。（時間，字数） ○スピーチの例示を示し，内容面で分かりづらかった所を出し合う場面を設ける。 →「言葉の分かりやすさ」「詳しく聞きたい内容」「話す順序」 ○お互いのアドバイスを基に，改善の視点を明確にして校正していくことが大切であることをつかむ。明確化 主体的 ○課題を把握する。	Point 「言葉のわかりやすさ」「話す順番」「詳しく聞きたい内容」など改善の視点が明確になるような項目を確認しましょう。 例示は，黒板にスピーチのモデルを提示する。
課題　班で改善の視点を交流してスピーチ原稿を完成させよう。言語活動の設定 正対	
○テーマに基付いてスピーチ原稿を作成する。（個人） ○個々で作成したスピーチ原稿を基に班で交流する。（小グループ） ○個々の発表を聞いて，交流シートを交換しながら改善の視点を交流し合う。（小グループ） Bさん　Aさんのスピーチで，将棋を好きになったきっかけが知りたいです。 Cさん　私は，将棋の何の大会で優勝したかを入れられると良いと思います。 Dさん　話す順序について，最初に好きなものが「将棋」であることをズバリ述べた方が分かりやすいです･･･ ○交流シートから，複数（２つ以上）の改善の視点に基づいてスピーチ原稿を書き直す。（個人） ○学習を振り返る。 →班で再度発表し合いながら改善の視点が改められているかを確認する。	見通しや必要感をもたせるために例示を示し課題意識や意欲を高めましょう。 ◇A：順番などにも留意しながら複数の改善の視点に基づいてスピーチ原稿を改善している。 B：複数の改善の視点に基付いてスピーチ原稿を改善している。正対 ※Cへの手立て：交流シートの改善の視点の課題点を明確にさせ，自らのスピーチ原稿の改善に生かせるようにする。
振り返り　汎用性 主体的 正対 振り返り ○聞き手の立場にたって言葉を選んだり，順番を工夫したりすることで，より相手に伝わるスピーチ原稿をつくることができたので，今後に生かしたい。	
○次時の見通しをもつ。単元 主体的 →スピーチ原稿を基に伝え方を工夫し，スピーチの会を開く。	今回のスピーチに限らず，相手に分かりやすく物事を伝える際に，活用可能な汎用性のある力であることを実感させましょう。

目指す単元のゴール（生徒の「単元の振り返り」例）

○聞き手の立場に立って分かりづらい言葉を直したり，話す順番を工夫したりして，より相手に伝わるスピーチ原稿をつくることができたので，今後に生かしたい。
○友達と交流し合うことによって，自分では気が付かなかった改善の視点を知り，スピーチをよりよいものに直すことができた。
○相手に伝える際には，間の開け方や強弱などの伝え方も工夫することが大切であることを実感した。伝えたいことがうまく伝わった時にはうれしかった。

課題の改善策６

中学校国語Ｂ

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要
中Ｂ３三　必要な情報を集めるための見通しをもつ。 「走れメロス」に興味をもってもらえる内容を書くために，どのような人たちを対象に，どのような内容のアンケートを取るか，またその理由を書く。

学習指導要領における領域・内容
〔第１学年〕Ｂア 〔第２学年〕Ｂア

旭川の子どもたちは，ここでつまずいた！
①アンケートを取る対象や目的が明確になっていない。 ②必要な情報を集めるための見通しがもてていない。
＜不足している力＞ ・相手意識や目的意識を明確にして質問内容を考える。（中１Ａア） ・必要な情報を集めるために，的確な質問方法を考える。（中２Ａア）

＜授業プラン＞　第１学年「ポスターセッションをする」教科書Ｐ２３０

単元を通して身に付けさせたい力

○ 相手や目的を明確にしてアンケートの質問内容を考え，的確な方法で必要な情報を集める力（話すこと・聞くこと　ア）

単元を通して行う言語活動

アンケートで得られた情報を有効に生かして、ポスターセッションを行う。

	＜主な学習活動＞	〔指導上の留意点〕
第一次（1時間）	①単元の目標や見通しについて示し，ポスターセッションについて理解する。	■単元を通して主体的に学習に取り組むことができるよう見通しを明確にし，ポスターセッションの具体的イメージをもたせる。
第二次（4時間）	②③テーマを選択し，調べ学習を行った後，レイアウトを決め，記事の下書き・清書を行う。	■グループで交流し，ポスターセッションのテーマの様々なアイデアを想起させる。 ■「あったらいいもの」は，「それがあると助かるもの」という範囲であることを確認し，併せてその対象者もイメージさせる。
	④アンケートの効果について考えた後，目的や内容を確認し，様々な質問タイプから適切なものを選定してアンケート用紙を作成，チェックを行う。	■アンケートの効果や，アンケートをとる必要性を考えさせる。 ■対象や目的を明確にしたアンケートになるように条件を示す。 ■必要な情報が得られるようなアンケートになっているか確認させる。
	⑤実施したアンケートの結果を集計し，データ化やグラフ化して記事を完成させる。	■アンケートから得られたデータを分かりやすくまとめる手段を考え，適切に表現させる。
第三次（3時間）	⑥⑦発表者や聞き手の順番を決め，練習・本番を行う。	■聞き手の表情や反応を確かめながら話したり，分からないところは質問したりして交流を深めさせる。 ■ポスターセッションやアンケートの有用性について考えさせ今後の学習に生かす。
	⑧活動の振り返りを行う。	

本時の目標	対象や目的を明確にしたアンケートを考え，作成することができる。 （4/8時間目）【話すこと・聞くこと　ア】 明確化 正対

学　習　活　動	指導上の留意点・評価◇
○これまでの学習を想起する。 ○アンケートのモデルケースを考える。 ・身近な例からアンケートの効果を考える。 ○本時の学習活動を確認する。 明確化 主体的 ・アンケート項目を考え，アンケート用紙を作成する。	良いアンケート例を示し、気を付けるべき点についてあらかじめ触れておきましょう。
課題　必要な情報を集めるための効果的なアンケートを作成しよう。 言語活動の設定 正対	
○条件を確認し，構想を練る。（グループ） ①アンケートの目的を決める〔目的意識〕 ②アンケートの対象を決める〔相手意識〕 例）「第２体育館があったらいいな。運動部の人に普段不便に感じているところがないか聞いてみよう。」 例）「自転車置き場があったらいいな。遠距離の人に通学時間や困ったことがないか聞いてみよう。」 ③質問タイプを決める〔方法意識〕 ・教師がプリントで提示したものから，効果的な質問タイプを選択する。 ○グループごとに発表し，全体で確認する。（全体） ・他者の考えを聞き，自分の考え方を広げる。 ○アンケート用紙を作成する（グループ） ・相手が答えやすいような内容や見やすさ等に注意してアンケート用紙を作成する。 ○アンケートの適性チェックを行う（グループ） ・教師がプリントで提示したものを受け，適性チェックを行い修正する。 例）「回答者に負担のない質問ボリュームか。」 「質問文は誘導尋問になっていないか。」 ○本時の学習を振り返る。	**Point** 対象や目的を明確にしたアンケートになるように条件を示しましょう。 **Point** 教師が整合性を判断して，必要に応じて修正しましょう。 ◇A：目的意識や相手意識を元に効果的な質問を想定している。 B：提示されたものの中から質問方法を想定している。 正対 ※Cへの手立て：グループ交流で考えを元に選択させる。
振り返り 汎用性 主体的 正対 振り返り ○言語意識や質問タイプを工夫して，効果的なアンケートを作成することができた。	
○次時の見通しをもつ。 単元 主体的 ・アンケートを実施・集計し，データ・グラフ化する。	本時の学習を通して，アンケートの有用性を考え，効果的なアンケートを取るために必要なポイントを押さえましょう。

目指す単元のゴール（生徒の「単元の振り返り」例）

○アンケートを取る際には，対象や目的を明確にすることで，必要な情報を集めることができることが分かった。今後の活動に生かしていきたい。
○質問のタイプには様々なものがあり，必要に応じて使い分けることで，効果的なアンケートを作ることができた。
○「総合的な学習の時間」で職業調べを行う際に，自分の考えだけでなく，幅広い情報を集める必要性を感じた。レポートに説得力をもたせることができた。

「知識及び技能」の指導のポイント

小・中学校国語Ａ

語彙・辞典の活用

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解すること。
- 漢字辞典を活用し，漢字が表している意味を正しく捉えること。
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解すること。

指導のポイント

★国語辞典においては，「は」や「ひ」等について，「清音」「濁音」「半濁音」の順番になっていることを指導しましょう。
★漢字辞典を新出漢字の学習で活用するなど，活用の仕方や活用することの有用性についても指導しましょう。
★いつでも国語辞典や漢字辞典を使用できる学習環境を整え，様々な場面で主体的に活用させましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第３学年　「国語辞典のつかい方」
☆ 小学校第４学年　「漢字辞典の使い方」
☆ 中学校第１学年　「調べたことを報告しよう」

確かめよう!

☆ Ｈ２３小学校　Ａ８一
☆ Ｈ２８中学校　Ａ９四ア
☆ Ｈ２９中学校　Ａ９五

表現技法

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 比喩というと言葉と結び付けて，表現の仕方を理解すること。
- 比喩を用いた表現について理解すること。
- 表現の技法について理解すること。

指導のポイント

★学年の段階に応じて「擬音語」「擬態語」「比喩」を教え，各学年で反復しながら習得を目指しましょう。

★物語文教材の中から表現技法を見付け，効果を考えさせる学習を計画的に位置付けましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第２学年　「ようすをあらわすことば」
☆ 中学校第１学年　「鑑賞文を書く」
☆ 中学校第１学年　「さまざまな表現技法」

確かめよう!

☆ Ｈ２４中学校　Ａ３二
☆ Ｈ２５中学校　Ａ８七１
☆ Ｈ２７中学校　Ａ３一

主語と述語

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 目的に応じ，表現の効果を考えて文を書き換えること。
- 文の中における主語を捉えること。

指導のポイント

★小学校第２学年で，主語「だれは（が）」「何が（は）」，述語「どうする」「どんなだ」「なんだ」を指導します。
★「主語＝人，生き物」といった誤った認識をもつ場合がありますので，留意しましょう。
★日常の学習においても，主語と述語がねじれないように意識して話したり，書いたりできるよう指導しましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第２学年　「主語と述語」
☆ 小学校第５学年　「分かりやすく伝える」
☆ 中学校第１学年　「文法２　文の組み立て」
☆ 中学校第２学年　「推敲して適切な文章に直す」

確かめよう!

☆ Ｈ２３小学校　Ａ５
☆ Ｈ２７小学校　Ａ２ー

引用

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 表現の工夫である「引用」を理解すること。

指導のポイント

★物語文から優れた表現に着目し，引用して感想を書く学習等を充実させましょう。
★引用する際は「　　」を用いることや正確に書き抜くことを指導しましょう。
★根拠を明確にするなどの引用の効果に気付かせ，日常の書く活動においても活用させましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第５学年　「大造じいさんとガン」
☆ 小学校第６学年　「忘れられない言葉」
☆ 中学校第１学年　「私が選んだこの一冊」
☆ 中学校第２学年　「メディアと上手に付き合うために」

確かめよう!

☆ Ｈ２７小学校　Ａ５ニ

手紙の後付け

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 手紙の書き方を理解して書くこと。
- 手紙の構成を理解して書くこと。

指導のポイント

★「相手の名前は敬意を表すために高い位置に書く」など，意図を理解させながら，手紙を書く活動を行いましょう。
★総合的な学習の時間における礼状を書く活動など，実際の場面で活用しましょう。

指導に適した題材

☆ 小学校第３学年 「『ありがとう』をつたえよう」
☆ 中学校第２学年 「気持ちを込めて書こう」

確かめよう!

☆ H27中学校 A9六
☆ H29小学校 A2二

品詞

【過去の設問等から浮かびあがった課題】
- 単語の類別について理解すること。

指導のポイント

★小学校第３学年では，「動きを表す言葉」「様子を表す言葉」「物や事を表す言葉」の３つに分類していますが，「動詞」「形容詞」「名詞」などの用語についても，早い段階から指導し，繰り返し学習することが大切です。

指導に適した題材

☆ 小学校第３学年 「言葉を分類する」
☆ 中学校第１学年 「単語の性質を見つけよう」
☆ 中学校第２学年 「単語をどう分ける？」

確かめよう!

☆ H27中学校 A9四①②

ローマ字

【過去の設問等から浮かびあがった課題】

・ローマ字で書いたり，ローマ字を読んだりすること。

指導のポイント

★身近な生活から探すなど，有用感をもたせる工夫をしましょう。
★当該単元のみの指導にとどまらず定期的に定着の度合いを確認しましょう。
★コンピュータの入力とローマ字表記で異なる点について，理解させましょう。

指導に適した題材

☆小学校第3学年「ローマ字」
☆小学校第3学年「コンピュータのローマ字入力」

確かめよう!

☆ H28小学校　A8123

接続語

【過去の設問等から浮かびあがった課題】

・文と文の意味のつながりを考えながら，接続語を使って内容を分けて書くこと。

指導のポイント

★接続語の理解を図るだけではなく，接続語を使って１つの文を２つの文に分けるなどの書く活動を十分保障しましょう。
★日常の書く活動においても，この視点を意識して推敲させましょう。

指導に適した題材

☆小学校第4学年「文と文をつなぐ言葉」
☆中学校第1学年「指示する語句と接続する語句」

確かめよう!

☆Ｈ２５小学校　A3二（１）

国語科の授業づくりの視点

Ｐ２０，２１の「国語科の授業づくりのステップ」を活用して，７つの視点から授業づくりを行いましょう。

授業づくりの「７つの視点」

〔明確化〕単元や本時の身に付けさせたい力を明確にしましょう。
〔言語活動の設定〕身に付けさせたい力が身に付く言語活動を設定しましょう。
〔単元〕単元（題材）のまとまりを見通して，身に付けさせたい力を育む工夫をしましょう。
〔主体的〕単元や本時の冒頭や言語活動の前に，見通しや必要感をもたせましょう。
〔正対〕単元や本時の目標・課題・振り返り・評価規準を正対させましょう。
〔振り返り〕自分が身に付けた力を自覚できる振り返りにしましょう。
〔汎用性〕今後の学習や生活場面で生かすことができる力を育てましょう。

単元　**明確化**　**汎用性**
指導事項を基にして焦点化しましょう。

授業例

中学校第１学年「星の花が降るころに」Ｐ９６

単元を通して身に付けさせたい力

○　登場人物や情景の描写，場面の展開に着目して作品を読み，登場人物のものの見方や感じ方について，自分の考えをまとめる力（読むこと ウ）

単元　**言語活動の設定**
身に付けさせたい力を付けるのに最適な言語活動を設定しましょう。

単元を通して行う言語活動

登場人物像をとらえ、アフターストーリーを語り合う。

第一次（1時間）

＜主な学習活動＞

①アフターストーリーを考えることに興味をもち，「単元を通した言語活動」を知るとともに，登場人物像をとらえる学習の必要感をもつ。

単元　**主体的**
単元を通して主体的に学習に取り組むことができるよう見通しをもたせるとともに，今後の学習に必要感をもてるよう工夫しましょう。

第二次（3時間）

②場面の展開に沿って「私」の心情の変化を読むために，根拠となる描写について話し合う。

単元　**主体的**
第２次においては，単元を通して行う言語活動との関わりを明らかにして，児童生徒が必要感をもって学習できるようにしましょう。

③④情景・行動等の叙述に着目し，登場人物の心情や人物像をとらえる。

汎用性
本題材だけでなく，他の文学作品を読む際にも活用できる力として身に付くよう工夫しましょう。

第三次（1時間）

⑤単元の学びを生かして，とらえた人物像を踏まえたアフターストーリーを創作し，交流する。

単元　**汎用性**　**正対**　**振り返り**
単元を通して身に付けさせたい力と正対するよう留意し，今後の学習や生活場面で活用できる力として身に付いたことを自覚させましょう。

本時の目標	叙述に着目して登場人物の人物像をとらえることができる。 （5/5時間目）【読むこと　ウ】明確化 正対

指導事項を基にして焦点化しましょう。

学　習　活　動	指導上の留意点・　評価◇
○これまでの学習を想起する。単元 ○本時の学習活動を確認する。単元 言語活動の設定 →「星の花が降るころに」のアフターストーリーを創作し，交流する。 ○条件を確認する。主体的 →叙述を根拠にして，自分がとらえた「私」「戸部君」「夏実」の人物像に基づいて創作する。 →２００字～４００字とする。	本時の導入においては，単元を通して行う言語活動との関連等，本時の言語活動を行う目的を理解させるとともに，その必要感をもたせ，課題意識や意欲を高めましょう。 ・目的を達成するために，適切な条件を複数設定する。 ・アフターストーリーを創作する目的が，「叙述を基に捉えた人物像を自分で表現すること」であることを理解させる。
課題　アフターストーリーを創作・交流して，登場人物の人物像をとらえよう。正対	
○「星の花が降るころに」のアフターストーリーを創作する。 ○交流の手順や留意点について確認する。主体的 ・３～４人の小グループで互いの文章を読み合う。 ・一人ずつ，自分が考えたアフターストーリーについて，とらえた人物像やその根拠となる叙述について説明する。 ・それぞれがとらえた人物像の共通点や相違点について話し合う。 ※教師がモデルを示す。 ○交流する。 ○交流を通して，気付いたことや感じたことを全体で交流する。 ○本時の学習を振り返る。	Point 目標の達成にせまる交流にするためには，叙述を根拠とするなど，話合いが深まる視点をもたせてから交流させることが大切です。 ◇A：創作・交流を通し，多数の叙述に着目して登場人物像を捉えている。 B：叙述に着目して登場人物像を捉えている。正対 ※Cへの手立て：前時までの学習や交流した生徒の根拠を想起させ，具体的な叙述から登場人物像を捉えさせる。 児童生徒が手順や留意点等について見通しをもって活動できるよう，実態に応じて，教師がモデルを示すなど手立てを工夫しましょう。
振り返り　正対 汎用性 振り返り ・その後の物語を考えることで，改めて叙述に着目して，登場人物の人物像を深く捉えることができた。	単元及び本時の振り返りにおいては，その題材の内容のまとめにとどまらず，今後の学習や生活場面で活用できる汎用性のある力として，自分にどんな力が付いたかを自覚できるよう，観点の与え方等を工夫しましょう。
○単元の学習を振り返る。 振り返り　単元 正対 汎用性 振り返り 主体的 ・情景描写から人物の心情を理解することができるようになったので，今後も文学作品を読む際は，情景描写に気を付けたい。 ・その後の物語を考えながら読むことで，はじめは気付かなかった登場人物の人物像を示す叙述を見付けられることができて楽しかった。 ・人物像をとらえた根拠となる叙述について友達と交流することで，自分では気付かない叙述がたくさんあることが分かったので，今後の読書に生かしていきたい。	

単元編　国語科の授業づくりのステップ

国語科は，単元の学習を通して，指導事項を身に付けさせる教科です。ですから，指導者が単元全体の学びをしっかりと作ってから，学習をスタートさせましょう。以下は一般的な単元づくりのステップです。参考にしてみましょう。

Step1　指導事項を明確にする

教育課程からその単元で身に付けさせたい指導事項を明確にし，単元の目標を設定しましょう。複数の指導事項が示されている場合は，重点を置く指導事項を決め，身に付けさせたい力をより焦点化するとよいでしょう。年間指導計画を見て，同じ指導事項を扱った単元のつながりや他学年との系統性を確認することで，指導事項がより明確になります。

Step2　単元を通して行う言語活動を設定する

ステップ１で明らかにした指導事項を身に付けさせるための言語活動を設定し，児童生徒の単元のゴールの姿を明確にします。言語活動を設定する際には次のことを意識しましょう。

①指導事項と結び付いた言語活動
②児童生徒が「やってみたい・面白そうだ」と感じる言語活動
③児童生徒の実態に合ったもの，児童生徒の思考の流れに沿った言語活動

教科書の手引きを参考にしてみるのもよいでしょう。言語活動が決まったら，指導者自身がその言語活動を行ってみることも大切です。実際に行うことで指導事項と結び付いた言語活動になっているかをチェックすることができます。単元の導入で学習モデルとして児童生徒に提示するのも有効です。指導事項と合っていなければ，言語活動をもう一度設定し直す場合もあるでしょう。

Step3　単元の指導計画を立てる

単元を大きく３つのまとまりと考えるとよいでしょう。第１次では，児童生徒の興味・関心を高めるような工夫をしたり，学習モデルを提示して単元の見通しや学習への必要感をもたせたりすることが大切です。第２次は，主教材を扱う段階です。ここで大切なことは，第２次で行う学習活動が単元を通して行う言語活動と結び付いていることです。児童生徒が目的をもって学習できるよう単元を通して行う言語活動と結び付いた学習を展開しましょう。第３次は単元のまとめです。この段階では作成物や表現活動を通して交流し，達成感を味わわせることが考えられます。また，単元の学習を振り返って，どんな力が身に付いたのか，何ができるようになったのかを明らかにさせ，今後の学習や生活場面につなげていきましょう。

本時編　国語科の授業づくりのステップ

単元づくりで作成した指導計画を１時間ごとに具体化していきましょう。１時間の流れについても大きな３つのまとまりで構想するのが一般的です。以下の３つのステップを参考にしましょう。

Step1　本時の目標と学習課題を設定する

単元の目標を達成するための本時の目標を設定し，目標と正対するように学習課題を設定します。児童生徒に学習課題を提示する際には，単元の学習計画表等を使って，単元全体の学習課題と本時がどのように結び付いているのかを意識させるとよいでしょう。

Step2　課題解決に向けた学習活動を設定する

展開では，導入で児童生徒に示した課題を解決するための学習活動を具体化して設定します。領域や目標によって，展開部分で行う学習は異なりますが，原則として次のことを意識するとよいでしょう。

CHECK!　**条件**

～文字以上～文字以内にまとめる，〇〇と〇〇を根拠にして考えるなど条件を提示して，その条件を意識して活動させましょう。提示した条件についても，言語活動と結び付けて，必要感をもたせるとよいでしょう。

CHECK!　**学習形態**

ペア，グループ，全体などねらいに合った学習形態を取り入れます。これらの学習形態で話合いを行う際には，話し合う目的や視点を示し，児童生徒が必要感をもって取り組むことが大切です。グループで話し合う際の人数は，全員が自分の考えを表出できるよう４名程度がよいでしょう。

CHECK!　**5つの言語意識**

〇〇のためになどの目的意識，～に伝わるようになどの相手意識，どのような表現形式でなどの方法意識，どのような場面，条件でなどの場面・条件意識，相手に伝わったかなどの評価意識を大切にしましょう。

Step3　本時のまとめ・振り返りを設定する

課題に対する１時間のまとめを設定しましょう。この際に課題とまとめが正対していることが大切です。学習活動を示すような課題の場合は，まとめではなく，その活動を行うことによって，どのような力が身に付いたかを自覚できるような振り返りを行うようにしましょう。最後に学習計画表等を使って，単元のゴールに向けて，１時間で学びがどこまで進んだのかを明らかにすると，次時への見通しをもつことができ，主体的な学習につながります。

国語科等における教師の言語技術

児童生徒の思考を深め，豊かな学びを実現させるためには，適切な教師の発問・指示が重要です。このことは，国語科の指導のみならず，どの教科等においても求められる，教師の言語技術です。

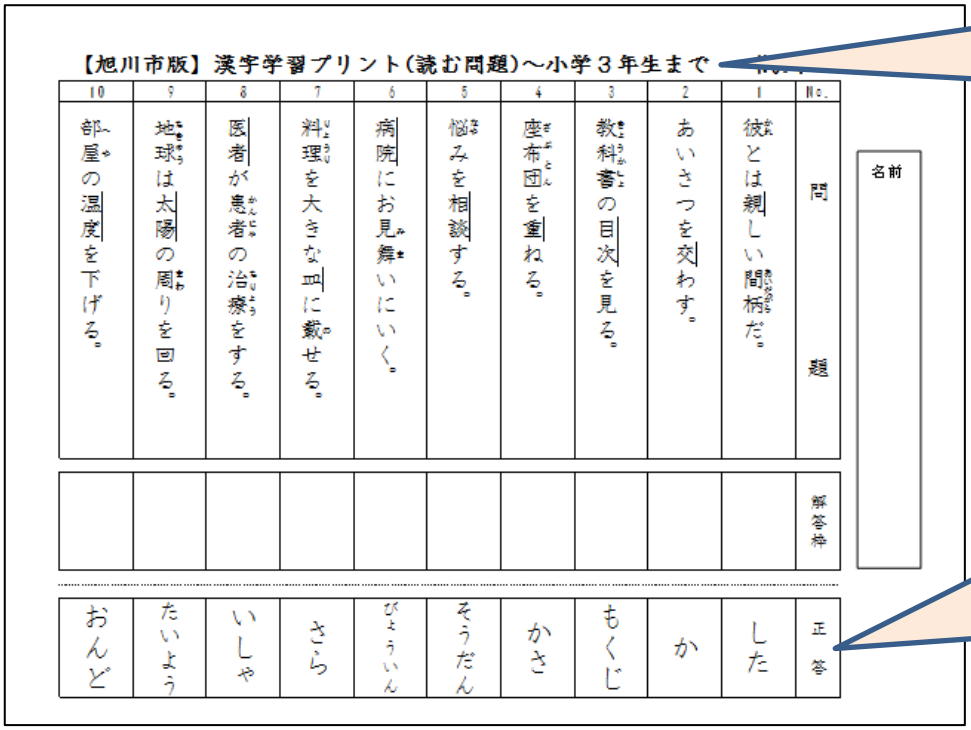
児童生徒の学習の状況を見極め，どのような視点を与えることが必要かを判断し，適切な発問・指示を行うことが大切です。その一例を下表にまとめましたので，授業づくりの際などに，参考にしてください。

目　的	教師の言語（発問・指示）
総括的に見通す	○この時間は，何が分かればよいのだったかな？ ○この単元では，どんなことにたどり着きたいのだったかな？ 例：アフターストーリーは何のために書くのだったかな？
共通点・相違点を見いだす	○（二つ以上の事柄で）同じこと（似ていること）は，どんなことかな？ ○違いをはっきりさせよう。それは，何かな？ 例：「私」の人物像の捉え方で，自分と異なる友達の考えを全てノートに書きなさい。
焦点化する	○最も条件に適しているものはどれですか？ ○重要な順に整理して書きなさい。 例：「戸部君」の人物像を捉えるために，最もよく分かる叙述はどれですか？
仮定する	○もしも…ならば，どうなるかな？ ○仮に…であったなら，どう変わるだろうか？ 例：もしもこの物語がもう１ページ続くとしたら，作者は「私」のどんな姿を描くだろうか？
複数条件を明確化する	○忘れてはいけないことは，何と何かな？ ○満たさなければならない条件はいくつあって，それは何かな？ 例：アフターストーリーの二つの条件はなんだったかな？二つの条件を満たしているか，確認しながらもう一度読み返しましょう。
関係性を見付ける	○～～が変化すると，～～はどう変わるだろうか？ ○両者の変化の様子から考えると，～～と～～はどのような関係といえるだろうか？ 例：「私」の「夏実」への思いが変化したことについて，「戸部君」の存在はどのように関係しているのだろうか？
視点を転換させる	○～～だったら，どう考えられるだろう？ ○別の視点から見ている人はいないかな？ 例：「星形の花を土の上にぱらぱらと落とした。」の描写から，「夏実」との決別を決意したと解釈した人が多いが，違う視点で解釈した人はいませんか？

【旭川市版】漢字学習プリント

子どもたちが苦手としている「同音異義語」についてのプリントや，小学校３年生から中学生まで学年ごとの「読み」「書き」それぞれの漢字学習プリント，計３０枚を作成しました。

旭川市ＨＰからダウンロードして，必要なプリントのみを印刷することができますので，児童生徒の実態に合わせて御活用ください。



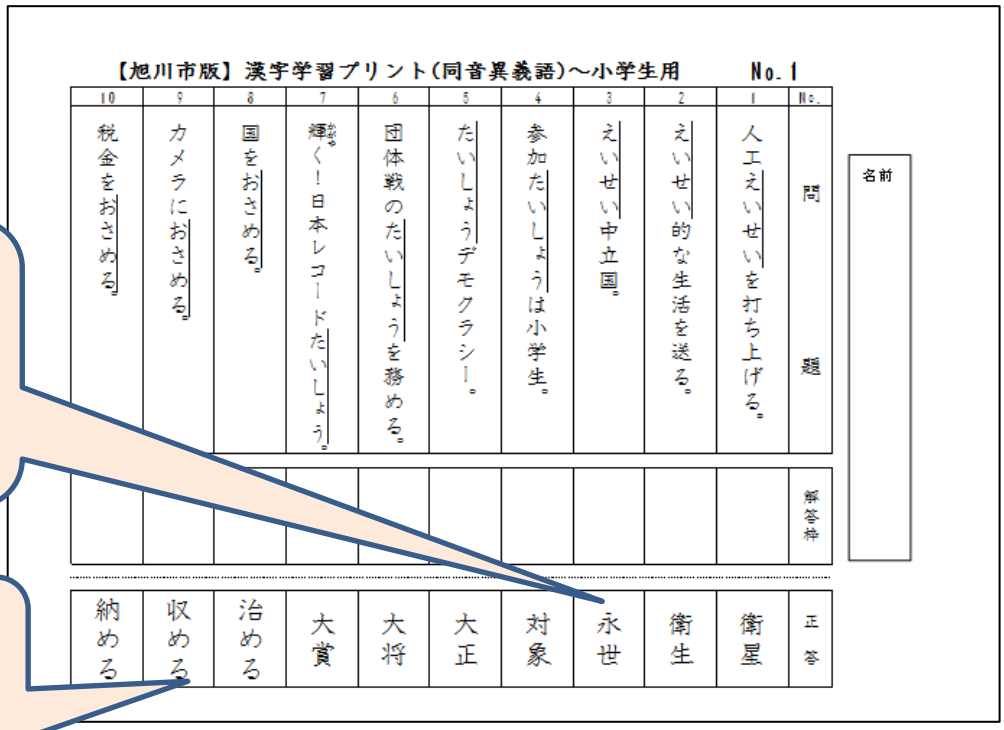
【旭川市版】漢字学習プリント（読む問題）～小学３年生まで

No.	問題	解答枠	正答
1	彼とは親しい間柄だ。		した
2	あいさつを交わす。		か
3	教科書の目次を見る。		もくじ
4	座布団を重ねる。		かさ
5	悩みを相談する。		そうだん
6	病院にお見舞いにいく。		びょういん
7	料理を大きな皿に盛せる。		さら
8	医者が患者の治療をする。		いしゃ
9	地球は太陽の周りを回る。		たいよう
10	部屋の温度を下げる。		おんど

名前

学年ごとに作成しているので，小学校３年生から使用可能です。

正答がついているので自学にも活用可能ですし，切り取って使用することも可能です。



【旭川市版】漢字学習プリント（同音異義語）～小学生用　No.1

No.	問題	解答枠	正答
1	人工えいせいを打ち上げる。		衛星
2	えいせい的な生活を送る。		衛生
3	えいせい中立国。		永世
4	参加たいしょうは小学生。		対象
5	たいしょうデモクラシー。		大正
6	団体戦のたいしょうを務める。		大将
7	輝く！日本レコードたいしょう。		大賞
8	国をおさめる。		治める
9	カメラにおさめる。		収める
10	税金をおさめる。		納める

名前

解答の際に，言葉の意味や用法について併せて指導することで，語彙が豊かになります。

使い分けのポイント等についても指導することが大切です。

小学校・中学校学習指導要領　国語　目標及び指導事項一覧表

【A　話すこと・聞くこと】

	（小）第１学年及び第２学年	（小）第３学年及び第４学年	（小）第５学年及び第６学年
目標	(1)　相手に応じ，身近なことなどについて，事柄の順序を考えながら話す能力，大事なことを落とさないように聞く能力，話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに，進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1)　相手や目的に応じ，調べたことなどについて，筋道を立てて話す能力，話の中心に気を付けて聞く能力，進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに，工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1)　目的や意図に応じ，考えたことや伝えたいことなどについて，的確に話す能力，相手の意図をつかみながら聞く能力，計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに，適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
	(1)　話すこと・聞くことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
話題設定や取材	ア　身近なことや経験したことなどから話題を決め，必要な事柄を思い出すこと。	ア　関心のあることなどから話題を決め，必要な事柄について調べ，要点をメモすること。	ア　考えたことや伝えたいことなどから話題を決め，収集した知識や情報を関係付けること。
話すこと	イ　相手に応じて，話す事柄を順序立て，丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ウ　姿勢や口形，声の大きさや速さなどに注意して，はっきりした発音で話すこと。	イ　相手や目的に応じて，理由や事例などを挙げながら筋道を立て，丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ　相手を見たり，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意したりして話すこと。	イ　目的や意図に応じて，事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら，場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ウ　共通語と方言との違いを理解し，また，必要に応じて共通語で話すこと。
聞くこと	エ　大事なことを落とさないようにしながら，興味をもって聞くこと。	エ　話の中心に気を付けて聞き，質問をしたり感想を述べたりすること。	エ　話し手の意図をとらえながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
話し合うこと	オ　互いの話を集中して聞き，話題に沿って話し合うこと。	オ　互いの考えの共通点や相違点を考え，司会や提案などの役割を果たしながら，進行に沿って話し合うこと。	オ　互いの立場や意図をはっきりさせながら，計画的に話し合うこと。

	（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
目標	(1)　目的や場面に応じ，日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力，話し手の意図を考えながら聞く能力，話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに，話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	(1)　目的や場面に応じ，社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力，考えを比べながら聞く能力，相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに，話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。	(1)　目的や場面に応じ，社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力，表現の工夫を評価して聞く能力，課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに，話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。
	(1)　話すこと・聞くことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
話題設定や取材	ア　日常生活の中から話題を決め，話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	ア　社会生活の中から話題を決め，話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。	ア　社会生活の中から話題を決め，自分の経験や知識を整理して考えをまとめ，語句や文を効果的に使い，資料などを活用して説得力のある話をすること。 イ　場の状況や相手の様子に応じて話すとともに，敬語を適切に使うこと。
話すこと	イ　全体と部分，事実と意見との関係に注意して話を構成し，相手の反応を踏まえながら話すこと。 ウ　話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方，相手に分かりやすい語句の選択，相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	イ　異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ，話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し，論理的な構成や展開を考えて話すこと。 ウ　目的や状況に応じて，資料や機器などを効果的に活用して話すこと。	
聞くこと	エ　必要に応じて質問しながら聞き取り，自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	エ　話の論理的な構成や展開などに注意して聞き，自分の考えと比較すること。	ウ　聞き取った内容や表現の仕方を評価して，自分のものの見方や考え方を深めたり，表現に生かしたりすること。
話し合うこと	オ　話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり，相手の発言を注意して聞いたりして，自分の考えをまとめること。	オ　相手の立場や考えを尊重し，目的に沿って話し合い，互いの発言を検討して自分の考えを広げること。	エ　話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し，課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。

【B　書くこと】

	（小）第１学年及び第２学年	（小）第３学年及び第４学年	（小）第５学年及び第６学年
目標	(2)　経験したことや想像したことなどについて，順序を整理し，簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに，進んで書こうとする態度を育てる。	(2)　相手や目的に応じ，調べたことなどが伝わるように，段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに，工夫をしながら書こうとする態度を育てる。	(2)　目的や意図に応じ，考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに，適切に書こうとする態度を育てる。
	(1)　書くことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
課題設定や取材	ア　経験したことや想像したことなどから書くことを決め，書こうとする題材に必要な事柄を集めること。	ア　関心のあることなどから書くことを決め，相手や目的に応じて，書く上で必要な事柄を調べること。	ア　考えたことなどから書くことを決め，目的や意図に応じて，書く事柄を収集し，全体を見通して事柄を整理すること。
構成	イ　自分の考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ　文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。	イ　自分の考えを明確に表現するため，文章全体の構成の効果を考えること。
記述	ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら，つながりのある文や文章を書くこと。	ウ　書こうとすることの中心を明確にし，目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ　文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	ウ　事実と感想，意見などとを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 エ　引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書くこと。
推敲	エ　文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いなどに気付き，正すこと。	オ　文章の間違いを正したり，よりよい表現に書き直したりすること。	オ　表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
交流	オ　書いたものを読み合い，よいところを見付けて感想を伝え合うこと。	カ　書いたものを発表し合い，書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。	カ　書いたものを発表し合い，表現の仕方に着目して助言し合うこと。

	（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
目標	(2)　目的や意図に応じ，日常生活にかかわることなどについて，構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに，進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。	(2)　目的や意図に応じ，社会生活にかかわることなどについて，構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに，文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。	(2)　目的や意図に応じ，社会生活にかかわることなどについて，論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに，文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。
	(1)　書くことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
課題設定や取材	ア　日常生活の中から課題を決め，材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア　社会生活の中から課題を決め，多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。	ア　社会生活の中から課題を決め，取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに，文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。
構成	イ　集めた材料を分類するなどして整理するとともに，段落の役割を考えて文章を構成すること。	イ　自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして，文章の構成を工夫すること。	
記述	ウ　伝えたい事実や事柄について，自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。	ウ　事実や事柄，意見や心情が相手に効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書くこと。	イ　論理の展開を工夫し，資料を適切に引用するなどして，説得力のある文章を書くこと。
推敲	エ　書いた文章を読み返し，表記や語句の用法，叙述の仕方などを確かめて，読みやすく分かりやすい文章にすること。	エ　書いた文章を読み返し，語句や文の使い方，段落相互の関係などに注意して，読みやすく分かりやすい文章にすること。	ウ　書いた文章を読み返し，文章全体を整えること。
交流	オ　書いた文章を互いに読み合い，題材のとらえ方や材料の用い方，根拠の明確さなどについて意見を述べたり，自分の表現の参考にしたりすること。	オ　書いた文章を互いに読み合い，文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして，自分の考えを広げること。	エ　書いた文章を互いに読み合い，論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに，ものの見方や考え方を深めること。

【C　読むこと】

	（小）第１学年及び第２学年	（小）第３学年及び第４学年	（小）第５学年及び第６学年
目標	(3)　書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり，想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3)　目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3)　目的に応じ，内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
	(1)　読むことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
音読	ア　語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ア　内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア　自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
効果的な読み方			イ　目的に応じて，本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
説明的な文章の解釈	イ　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ　目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。	ウ　目的に応じ，文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり，事実と感想，意見などとの関係を押さえ，自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
文学的な文章の解釈	ウ　場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	ウ　場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。	エ　登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。
自分の考えの形成及び交流	エ　文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 オ　文章の内容と自分の経験とを結び付けて，自分の思いや考えをまとめ，発表し合うこと。	エ　目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。 オ　文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	オ　本や文章を読んで考えたことを発表し合い，自分の考えを広げたり深めたりすること。
目的に応じた読書	カ　楽しんだり知識を得たりするために，本や文章を選んで読むこと。	カ　目的に応じて，いろいろな本や文章を選んで読むこと。	カ　目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

	（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
目標	(3)　目的や意図に応じ，様々な本や文章などを読み，内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに，読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	(3)　目的や意図に応じ，文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力，広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに，読書を生活に役立てようとする態度を育てる。	(3)　目的や意図に応じ，文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに，読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。
	(1)　読むことの能力を育成するため，次の事項について指導する。		
語句の意味の理解	ア　文脈の中における語句の意味を的確にとらえ，理解すること。	ア　抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。	ア　文脈の中における語句の効果的な使い方など，表現上の工夫に注意して読むこと。
文章の解釈	イ　文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見などとを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 ウ　場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容の理解に役立てること。	イ　文章全体と部分との関係，例示や描写の効果，登場人物の言動の意味などを考え，内容の理解に役立てること。	イ　文章の論理の展開の仕方，場面や登場人物の設定の仕方をとらえ，内容の理解に役立てること。
自分の考えの形成	エ　文章の構成や展開，表現の特徴について，自分の考えをもつこと。 オ　文章に表れているものの見方や考え方をとらえ，自分のものの見方や考え方を広くすること。	ウ　文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 エ　文章に表れているものの見方や考え方について，知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。	ウ　文章を読み比べるなどして，構成や展開，表現の仕方について評価すること。 エ　文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつこと。
読書と情報活用	カ　本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け，目的に応じて必要な情報を読み取ること。	オ　多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て，自分の考えをまとめること。	オ　目的に応じて本や文章などを読み，知識を広げたり，自分の考えを深めたりすること。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

	（小）第１学年及び第２学年	（小）第３学年及び第４学年	（小）第５学年及び第６学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」,「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して，次の事項について指導する。		
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(ｱ) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり，発表し合ったりすること。	(ｱ) 易しい文語調の短歌や俳句について，情景を思い浮かべたり，リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 (ｲ) 長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。	(ｱ) 親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章について，内容の大体を知り，音読すること。 (ｲ) 古典について解説した文章を読み，昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	(ｱ) 言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (ｲ) 音節と文字との関係や，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。 (ｳ) 言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (ｴ) 長音，拗音，促音，撥音などの表記ができ，助詞の「は」,「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 (ｵ) 句読点の打ち方や，かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。 (ｶ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。 (ｷ) 敬体で書かれた文章に慣れること。	(ｱ) 言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (ｲ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。 (ｳ) 送り仮名に注意して書き，また，活用についての意識をもつこと。 (ｴ) 句読点を適切に打ち，また，段落の始め，会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。 (ｵ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し，また，語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。 (ｶ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について，辞書を利用して調べる方法を理解し，調べる習慣を付けること。 (ｷ) 修飾と被修飾との関係など，文の構成について初歩的な理解をもつこと。 (ｸ) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し，使うこと。	(ｱ) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 (ｲ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。 (ｳ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 (ｴ) 語句の構成，変化などについての理解を深め，また，語句の由来などに関心をもつこと。 (ｵ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。 (ｶ) 語感，言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。 (ｷ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 (ｸ) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。 (ｹ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
ウ 文字に関する事項	(ｱ) 平仮名及び片仮名を読み，書くこと。また，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。 (ｲ) 第１学年においては，別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第１学年に配当されている漢字を読み，漸次書き，文や文章の中で使うこと。 (ｳ) 第２学年においては，学年別漢字配当表の第２学年までに配当されている漢字を読むこと。また，第１学年に配当されている漢字を書き，文や文章中で使うとともに，第２学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。	(ｱ) 第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，また，ローマ字で書くこと。 (ｲ) 第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 (ｳ) 漢字のへん，つくりなどの構成についての知識をもつこと。	(ｱ) 第５学年及び第６学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。 (ｲ) 仮名及び漢字の由来，特質などについて理解すること。

	（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
	(1)「A話すこと・聞くこと」,「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して，次の事項について指導する。		
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(ｱ) 文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読して，古典特有のリズムを味わいながら，古典の世界に触れること。 (ｲ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。	(ｱ) 作品の特徴を生かして朗読するなどして，古典の世界を楽しむこと。 (ｲ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ，登場人物や作者の思いなどを想像すること。	(ｱ) 歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に親しむこと。 (ｲ) 古典の一節を引用するなどして，古典に関する簡単な文章を書くこと。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	(ｱ) 音声の働きや仕組みについて関心をもち，理解を深めること。 (ｲ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し，語感を磨くこと。 (ｳ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに，話や文章の中の語彙について関心をもつこと。 (ｴ) 単語の類別について理解し，指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。 (ｵ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。	(ｱ) 話し言葉と書き言葉との違い，共通語と方言の果たす役割，敬語の働きなどについて理解すること。 (ｲ) 抽象的な概念を表す語句，類義語と対義語，同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し，語感を磨き語彙を豊かにすること。 (ｳ) 文の中の文の成分の順序や照応，文の構成などについて考えること。 (ｴ) 単語の活用について理解し，助詞や助動詞などの働きに注意すること。 (ｵ) 相手や目的に応じて，話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。	(ｱ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに，敬語を社会生活の中で適切に使うこと。 (ｲ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ，和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し，語感を磨き語彙を豊かにすること。
ウ 文字に関する事項	(ｱ) 小学校学習指導要領第２章第１節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え，その他の常用漢字のうち 250 字程度から 300 字程度までの漢字を読むこと。 (ｲ) 学年別漢字配当表の漢字のうち 900 字程度の漢字を書き，文や文章の中で使うこと。	(ｱ) 第１学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字のうち 300 字程度から 350 字程度までの漢字を読むこと。 (ｲ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き，文や文章の中で使うこと。	(ｱ) 第２学年までに学習した常用漢字に加え，その他の常用漢字の大体を読むこと。 (ｲ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について，文や文章の中で使い慣れること。